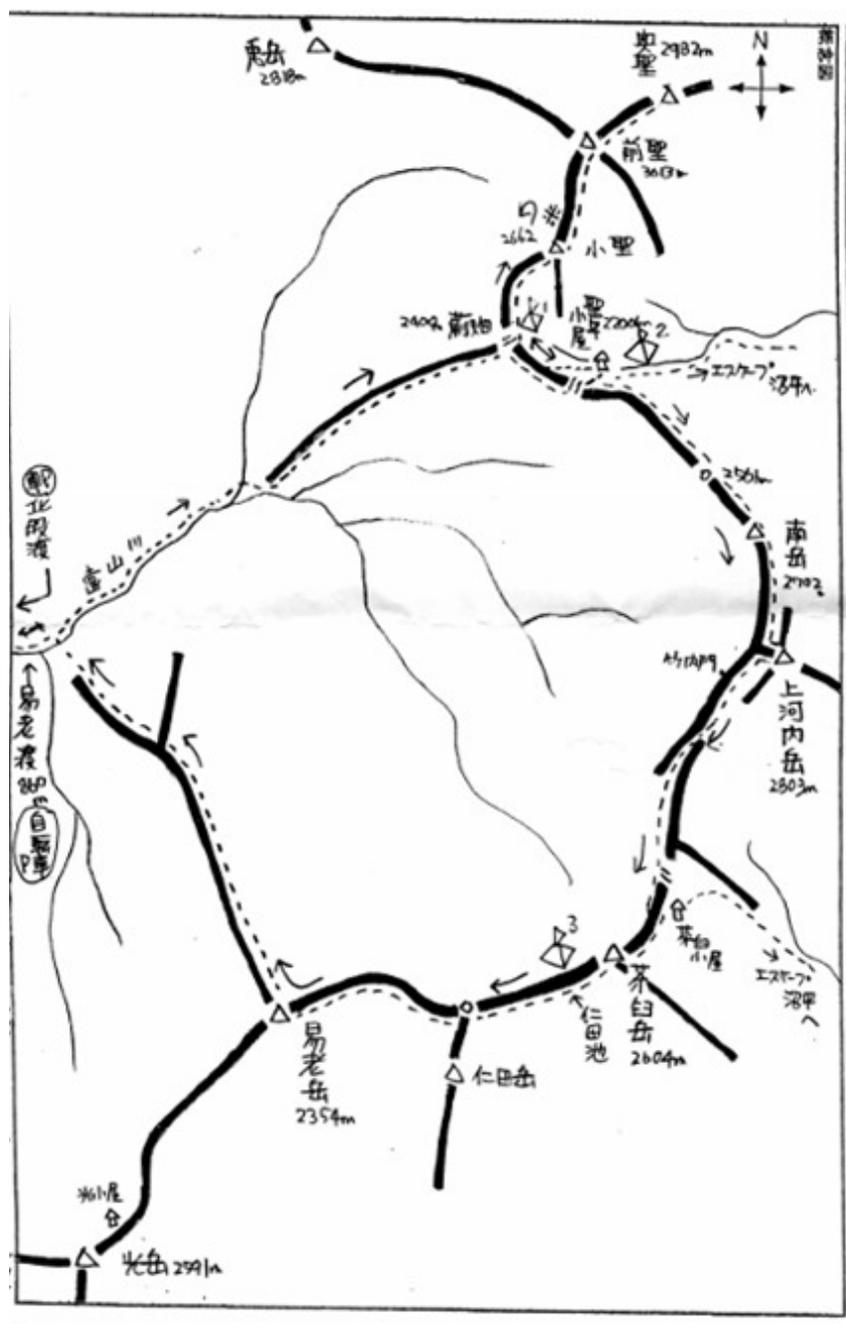


# 易老渡より聖岳、上河内岳、茶臼岳周回 (中部山岳縦断山行)

2015年5月3日(日)~5月6日(水)

メンバー：磯部S(リーダー)、磯部N



5/3(日) 晴れ時々曇り

遠山郷の国道が、のり面崩壊のため時間帯通行止めになっていたの、そこが開く7時に合わせて早朝出発。

山道はほんといろいろある。事前チェックは大切です。

さらに国道を離れて便ヶ島に行く林道も、北又渡で同じく通行止め。初日は重い荷物を背負って聖平までと大変なため早く行動したかったが、そこは南アルプス、いらぬ思い出を作らせてくれる。



北又渡のゲート。10数台駐車できる広い空き地がある。

今回ここから易老渡までの約8kmのために、時間短縮&体力節約のため電動アシスト自転車と、3段切り替え折りたたみ自転車を用意した。前者の有効性は実証済みだが後者は一抹の不安があった。地形図によれば林道はかなり緩やかな登りだし舗装も多い。が、結果は厳しいものであった。緩やかでも3段では重い荷物も背負っているし、登山で使う大腿四頭筋をかなり使ってしまうと肝心の登山に響いた。登りでは引いていくべきであろう。もう一台があまりにも余裕で乗っているため、勘違いして頑張った報いでもある。



愛車、ヤマハの電動アシスト自転車。どんな登り坂でも平地と勘違いしてしまう。

さて、易老渡に自転車をデポして西沢渡に向けて林道を歩く。便ヶ島からは以前かなり荒れていた記憶があったが、遊歩道化され快適だった。

西沢渡の渡渉は、有名な渡し籠だが2代目になっていてこれまた立派になっていた。おもしろそうなので乗ってみたがこれも失敗だった。

重い、重すぎる…。悔しいので渡りきったが両腕はぱんぱんになっていた。石飛で渡るべきだった。



見た目もカッコよく、製作費用もかなりとみたが・・・。

ここから延々と樹林帯の中、登りが続く。平地など休めるところはなくひたすら高度を上げていく。2200m辺りから雪がポツポツ出てき始めた。やっと稜線近くなり、最後は右に巻くようにして薊畑に着いた。すでにガスっていて遠望は効かない。聖平小屋まで行くことはできたが、明日の天气がやばそうなので、聖岳登頂を狙うには早朝往復に賭けるしかない。少しでも近いここでビバークすることに決めた。斜面を少し下って樹林帯との境で雪を整地してテントを張る。



標高差1300mの直登！

<タイム> 北又渡ゲート (8:30) – 易老渡 (9:25) – 西沢渡 (10:55-11:30) – 薊畑 (17:30)

5/4 (月) 曇りのち雨

4時に起きるも、小雨で待機。6時には曇ってはいるが小聖方面は見渡せるのでアタックを決める。軽い荷物で歩は進むが、残念ながら悪天傾向も進んでいく。雪の樹林帯を抜け小聖を過ぎた頃からガスはたちこめ小雨も降ってきた。

これから上は吹きさらしの広い稜線の為、ここで撤退を決める。

この間ビバークポイントはあるが、聖岳登頂はあきらめ聖平冬季小屋で停滞することに決めた。



聖平冬季小屋。雪が少ない！

小屋へのトレースは夏道でなくショートカットされ、小屋裏までダイレクトに着いていた。周辺の雪は少なく、テン場もかなり土が見えていて、一張りひっそりとたたずんでいた。広く新しい小屋の中は快適で、停滞環境としては最高、水量豊かな沢から水は取り放題、今朝光岳から来たという強者男性二人組が来るまでは、のびのびと過ごすことができた（以後下山するまで誰にも会わず、静かな山旅を送る。さすが南ア）。終日小雨。

<タイム> 薊畑（6:00）－小聖先撤退地点（7:30）－聖平冬季小屋（9:50）

5/5（火）曇りのち晴れ

茶臼岳に向けて出発。南岳までが今回のポイントだ。樹林帯の中、踏み抜き、最短コースの見極めなどによって、所要時間がかなり変わりそうだからだ。ところが露出した木道を抜けると、なんとトレースがしっかり着いている。この雨でだいぶ甘くなっているが、やはり好き者はいる。踏み抜きも少なく、快適に高度を上げた。アイゼンは付けたり外したり忙しい。



振り返って、聖岳。

南岳頂上への最後の長い雪の斜面は、少し気を使った。きつくはないが滑ったら終わりだ。やっとの思いで着いたトップからの景色はバツグン！。聖、赤石から茶臼、光まで見渡せた。広く緩い尾根は雪をかぶせ、これから続く山旅にうれしくなってしまう。



天気も回復傾向。聖をバックに南岳にて。

今までの急登は無くなり、ここから南アルプスは顔を変える。  
緩やかなアップダウンを繰り返しながら徐々に標高を下げやがて深南部に続いていくんだ、ということが実感としてわかる。



南岳から上河内岳。山容が穏やかになっていく。

上河内岳頂上は夏道からわずかにはずれている。分岐点に荷を置き、ピストンした。竹内門を過ぎるとまたどこでもテントを張りたくなる、眺望のきくゆったりとした尾根が続く。誘惑に駆られながらも、最終日に楽をしたいため、茶臼岳の先、仁田池周辺の雪原を目指す。



振り返るとピラミダルな上河内岳がかっこいい。



快適な縦走路。茶臼から光へ続く。

今夜から明日にかけて、移動性高気圧が真上を通過する。こんな時は風もなく晴天で、茶臼小屋でテン泊するのはもったいない。

3000m近い雪の稜線で、夕焼け、満天の星空、日の出、を堪能できるのは、春山ならではだ。

茶臼小屋への分岐のコルからゆったり登って、大岩だらけの茶臼岳頂上。雪もなくまるで夏山だ。日射しも暑い。



茶臼にて初めて手ぬぐい出して記念撮影。やっと50周年事業に参加した実感が・・。

そこから少し南下すると、下った先に今宵の宿、仁田池周辺らしいところ（雪に埋まっているため目視ではわからず）が見えた。  
ハイマツの風下にテントを張り終え、ハイマツをハンモックに景色を期待しながら時を待ったが、残念ながらガスが出てきて夕焼けはダメ。  
夜中の星空は、これまた満月のためミルキーウェイはあれだよ！なんてロマンを語れるほどではなかったが、すばらしかった。

<タイム> 聖平冬季小屋（6:30）－南岳（9:40）－上河内岳（10:50）－茶臼岳（13:30）－仁田池手前稜線上（14:20）

5/6(水) 晴れ

朝は、富士山方面から上る日の出を期待していたが、これまた富士山の位置を見誤り、左の山陰に隠れていた。  
しかし雲海と山並み、雪原を照らす光りの芸術は感動ものだった。



テント内から撮った写真。居ながらにして別世界。。



仁田池手前の稜線上にて。

富士山に見守られ、朝日に照らされながら縦走を続ける。アイゼンは着けたが、気温が高くほとんどクラストしていない。  
危険なところは何もなく、まさしく静かな旅路…。時間もあつたため仁田岳にも寄つた。



仁田岳から望遠で聖、奥聖と東尾根。

ここからは光岳への縦走路が見渡され、南アらしい樹林帯の中を歩き続けることがわかる。  
一見雪がなさそうだが、稜線上は雪がそこそこあって歩きやすかった。



樹林帯の尾根と変わる。



雪解けの美しい景色・・

展望のない樹林の中の易老岳はどこが頂上だかわからないくらい平坦だ。  
くどいくらいのテープと、見落としそうな標柱でここがそうかと確信する。  
トレースがなければ、しっかりコンパスで易老渡への降り口を確かめるところだが、光岳は人気があるらしく、そのルートでもある下山路はたくさんの足跡が着いていた。



気をつけないと通り過ぎそうな易老岳。

下り始めは雪があったが、直になくなり夏道と化した。単調で長すぎる下りはとてもつまらなかったが、ときどき見受けられる花が、少し癒してくれた。  
途中でコーヒーを飲み、南アのゆっくりとした時の流れに別れを惜しみつつ最後の下り道を踏破、そこからはデポした自転車で春風を気持ちよく切って山々をあとにした。



新緑の中、充実感一杯で駆け下る。

<タイム> 仁田池手前稜線上 (6:00) - 易老岳 (10:20) - 易老渡 (14:50) - 北又渡  
ゲート (15:20)

(磯部 S 記)

以上